

思いを伝えることができる幼児を育てるための援助の工夫

—「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の作成と活用を通して—

広島市立落合幼稚園教諭 岡田 幸子

研究の要約

本研究は、幼児が思いを伝えることができるようになるために、思いを伝える幼児の育ちを整理し、その育ちに応じた援助について探っていくことを目的としたものである。横山(2009)は、人との関わりの育ちを考える時、育ちの道筋を捉え、見通しをもって援助をすることが必要であると述べている。そこで、思いを伝える幼児の育ちの道筋、幼児の思い、育ちに応じた援助の3点に注目し、実践を通して、援助の工夫について考察した。その際、「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」を作成し、活用した。

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」を活用することは、教師間で思いを伝える幼児の育ちを共通理解することに役立つ、育ちに応じた援助を行うことに有効に働いた。

その結果、教師が思いを伝える幼児の育ちを把握し、育ちに応じた援助を行うようになり、幼児が思いを伝える姿につながった。

キーワード：思いを伝える、幼児の思い、育ちに応じた援助

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」

I 問題の所在

中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育部会では、近年の子どもの育ちが変化しており、幼児教育の課題の一つとして、コミュニケーション能力の不足を指摘している。その背景として、社会の急激な変化による地域社会や家庭の教育力の低下を挙げ、これらの変化に対応するために幼稚園教員の資質・専門性を高める必要があるとしている。

広島県教育委員会は、広島県内の幼稚園・保育所(園)・認定こども園の教員・保育士及び保護者を対象に、幼児の育ちの状況を把握するために「広島県幼児教育調査」を実施している。コミュニケーションの項目として、「自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く」を挙げているが、平成25年度の教員・保育士の観察調査において、「よくあてはまる」と回答した割合が、『幼稚園教育要領』の5領域16項目中最も低い。また、項目ごとの経年比較において、平成15年度の調査から、18年度、22年度と調査があるごとにその割合が下がっていることから、コミュニケーション能力の不足が指摘されながら、なかなか向上していない現状が明らかになっている。

所属園においては、友達と思いが食い違った時、自分の思いをうまく言葉で伝えられずに手を出したり、泣いたりする幼児がいる。また、他にしたいことがあっても友達に伝えることができず、黙っている幼児もいる。自分の保育を振り返ってみると、互いの思いを十分聞かずに、早く解決しようとしたり、友達と一緒にいるということによって安心して幼児の思いを読み取れていなかったりと、幼児が思いを伝えようとする姿につながるような援助が十分ではなかったと考えられる。また、幼稚園では、複数の教師で幼児に関わることが多い。加えて、所属園では、教師の経験年数の差も大きいため、教師が共通の視点で保育を進めるためには、幼児の育ちについて共通理解を図っていく必要性

を感じている。

そこで、本研究では、幼児が思いを伝えることができるようになるために、「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の作成と活用を通して、教師の援助の工夫について研究することとした。

II 研究の目的

幼児が思いを伝えることができるようになるために、思いを伝える幼児の育ちを整理し、その育ちに応じた援助の工夫について探ることを目的とする。

III 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 研究仮説の設定と検証の視点
- 3 検証保育の計画と実施
- 4 保育実践の分析と考察

IV 研究の内容

- 1 研究主題に関する基礎的研究

(1) 幼児が思いを伝えることについて

ア 幼児が思いを伝えるとは

『幼稚園教育要領解説』では、「幼児は、相手に親しみを感じると、その相手に思ったことを伝えようとする。」¹⁾「親しみをもつ、相手に伝えようとする、また、伝わることで親しみをもつという循環の過程を経て、次第に相手の思っていることに気付くようになり、幼児同士のかかわりが深まる。」²⁾としている。このことから、幼児が自分の思いを相手に伝えようとする主体的な行為が基となり、周りの人々とコミュニケーションを取り、幼児同士の関わりを深めることにつながると考える。

さらに、国立教育政策研究所『幼児期から児童期への教育』では、「幼児が周りの人々とコミュニケーションをとれるようになるためには、自分の思いや意思を言葉だけでなく身体表現も含めて、素直に表現できるようになることが基礎となる」³⁾と示している。

これらのことから、本研究では、思いを伝えるとは、自分の感情や意思を表情や行動、言葉などで表現することとする。

イ 思いを伝える幼児の育ちとは

横山(2009)は、人との関わりの育ちを考える時、育ちの道筋を捉え、見通しをもって援助することが必要であると述べている。

『幼稚園教育要領解説』では、「幼児は、幼稚園生活の中で心動かす体験を通して、様々な思いをもつ。この思いが高まると、幼児は、その気持ちを思わず口に出したり、親しい相手に気持ちを伝え共有しようとしたりする。」⁴⁾「初めは、互いに一方的に自分の思っていることを伝えることが多いが、相手に対する興味や親しみが増してくると、自分中心の主張をしながらも、少しずつ、相手に分かるように伝えようとする。」⁵⁾と示している。

また、文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の一つとして、思いを伝えることに関して、「相手に分かるように伝えること」としている。

このことから、本研究では、図1のように、「思いを伝える幼児の育ち」の道筋を、「①思いをもつ」「②思いを出す」「③一方的に自分の思っていることを伝える」「④相手に分かるように伝える」と整理した。

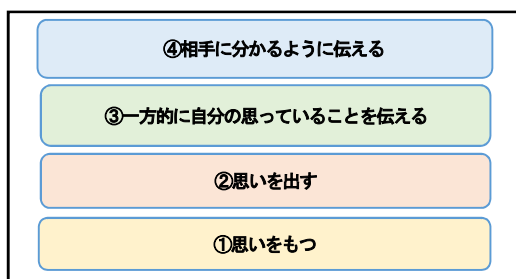


図1 本研究における思いを伝える幼児の育ちの道筋

(2) 思いを伝えるための教師の援助について

幼児が思いを伝えることができるようになるために、教師は、思いを伝える幼児の育ちを把握し、一人一人の幼児の思いを理解し、育ちに応じた援助をすることが大切だと考える。

文部科学省『幼児理解と評価』では、幼児は、自分の内面を言葉だけでなく、表情や動きといった身体全体で表現している。そのため教師は、身体全体で幼児に触れ、その思いを丁寧に感じ取ろうとする姿勢をもつこと、『幼稚園教育要領解説』では、教師は、幼児が友達と一緒に生活する中で、自分の思っていることを相手に伝えることができるようにすることが大切だとしている。

また、有賀(1990)は、幼児の行動や言葉の裏にある幼児の心をどれだけ読み取れるかが大切であるとし、幼児が言葉で思いを伝えるようになるための教師の援助について、表1のように10の視点を示している。

そこで、本研究では、思いを伝えることがで

表1 幼児が思いを伝えるための教師の援助の視点と具体的な援助の例

教師の援助の視点	具体的な援助の例
(a)通じ合う	・「楽しそうだね」「悲しいね」と、心に寄り添い、共感する ・「〇ちゃん、～」と、さりげなく体に触れながら声をかける ・同じ視線でものを見て、同じように動く ・感じている心の動きをありのまま受け止める
(b)聞く	・心に向き合ってじっくりと話を引き出す ・いつでも、どこでも幼児の思いに耳を傾ける ・「そうだね」「へえ～」とうなずき、応答する
(c)語りかける	・「見てるからね」「大丈夫だよ」と励ます ・気持ちに添って優しく語りかける
(d)対話の相手になる	・幼児の側に寄り添い、話をうとするのを待つ ・幼児の話をしっかりと受け止め、「それから」「すごいね」など、話したくなる方向で返していく ・「～したいだね」と、幼児の思いを的確に言葉で表現する ・感性を磨き、幼児の言葉にアンテナをはっていく
(e)ともに考える	・「ほんとだ、どうしてだろうね」「すごいね」と、疑問や発見を自分のものとして受け止め、ともに考えていく ・幼児のペースを大事にする
(f)思いを確かめる	・つぶやきなどを聞き逃さず、繰り返したり、聞き返したりすることで、幼児自身の思いを確認する ・一つ一つの動きやおしゃべりをしっかり見つけ、じっくりと耳を傾ける ・幼児の表現を受け止め、共感し、疑問を投げかける
(g)経験の共有をする	・心を動かしている姿を見逃さないようにし、遊びの楽しさを共有する ・教師は幼児と同じ場にいるようにし、幼児が思いを伝えたい時に、「楽しいね」「嫌だったね」と、受け止める
(h)多様な経験へつなぐ	・幼児が言葉で表したイメージが実現できるようにする ・「～しよう」と一緒に環境を構成し、遊ぶようにする
(i)多様な表現へつなぐ	・イメージを豊かにもち、「ななに」「どうしたの」「それから」「どんなふう」「どうなったの」と幼児の表現を引き出すようにする ・一人一人の表現に応じて言葉を添えたり、聞き返したり、楽しさを共感したりする
(j)言語環境の主体	・あこがれを形成するモデルになる ・人との関わり方や表現の仕方、応答の仕方のモデルを示す ・生活の中で、折に触れて、豊かな言語表現をしたり、受け止めたり、共感したりする

(無藤 隆・高杉 自子・有賀 和子他編著 『保育内容 言葉』 1990年)

きる幼児を育てるための教師の援助として、有賀が示している教師の援助の10の視点を取り入れ、幼児の育ちを把握し、幼児の行動や思いを理解しながら、育ちに応じた援助を探っていくこととした。

(3) 「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」について

ア 「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の作成と活用について

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」(11頁の資料)は、思いを伝えることができる幼児を育てるための援助をしていく指標となるように作成した。

保育の前や保育のリフレクションで、思いを伝える幼児の育ちを把握し、教師の援助が適していたかを確認し、幼児の育ちに応じた援助を教師間で共通理解するために活用する。

イ 「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の内容について

基礎的研究から、思いを伝えることができる幼児を育てるためには、「思いを伝える幼児の育ち」の道筋を知ること、「幼児の思い」を読み取ること、育ちに応じた「教師の援助」を行うことが必要であると考え、これらの三つの要素を関連付けて、表に示した。

「思いを伝える幼児の育ち」の道筋については、2頁の図1のように整理し、「思いを伝える幼児の育ち」を把握しやすいように、それぞれの育ちの具体的な姿を『幼稚園教育要領解説』を参考にしている。

「幼児の思いの読み取り」については、幼児の行動や言葉から読み取れる「幼児の思い」を、主に『幼稚園教育要領解説』を参考にし、具体的な姿と関連付けて整理している。

「教師の援助」は、2頁の表1の「教師の援助の視点」を基に、「思いを伝える幼児の育ち」に応じていると考えられる援助の視点を整理して示した。

ウ 「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の活用上の留意点

表は、教師が幼児の育ちを把握し、育ちに応

じた援助を行っていくための一つの指標である。必要に応じて、修正を加え、汎用性のあるものにしていく。

2 研究仮説の設定と検証の視点

(1) 研究仮説

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」を活用し、育ちに応じた援助をすることで、幼児が思いを伝えることができるようになるであろう。

(2) 検証の視点とその方法

検証の視点と方法については表2に示す。

表2 検証の視点と方法

	検証の視点	検証の方法
1	「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」を活用することは、幼児の育ちに応じた援助を行うために有効だったか	「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の活用分析
2	幼児の育ちに応じた援助をすることで、幼児が思いを伝えることができるようになったか	動画による会話・行動分析

3 検証保育の計画と実施

(1) 対象

幼稚園4歳児 抽出児(A児・B児)

(2) 期間

平成27年12月9日～12月21日

(3) 目的

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」を基に、抽出児(A児・B児)の思いを伝える姿や教師の援助の工夫について分析し、考察する。

4 保育実践の分析と考察

(1) 抽出児の分析と考察方法

- クラスの幼児の姿を観察し、思いを伝えることが難しいと捉えたA児、B児を抽出児とする。
- 「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助

を関連付けた表」に基づき、抽出児(A児・B児)の育ちを把握し、教師の援助の視点に沿って、育ちに応じた援助を確認する。

- 検証保育において、「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」に基づき、抽出児(A児・B児)の育ちに応じた援助を行う。
- 検証保育の後、図2のように「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」を活用し、教師間で保育のリフレクションを行うとともに、動画で保育を振り返る。
- 抽出児の「思いを伝える育ち」や「教師の援助」について分析や考察を行い、次の日の保育に生かすことを繰り返し、抽出児(A児・B児)の変容を見取る。

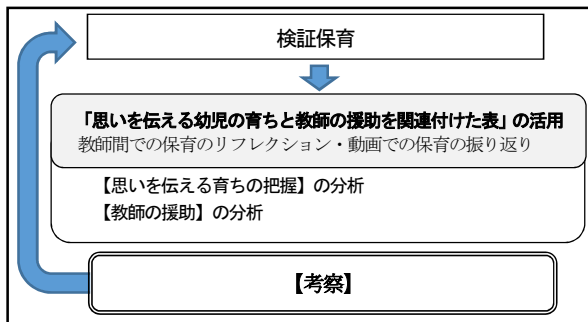


図2 保育実践の分析と考察の過程

(2) 抽出児(A児)について

ア A児の姿

園生活の中で、自分から話しかけることはあまりなく、朝の挨拶では、教師から声をかけてもらうだけで、ほとんど返事がない。一人で遊んでいることが多く、周りの遊びを気にして見ているが、にぎやかになると、その場からいなくなることが多い。

イ 思いを伝える幼児の育ち

A児の「思いを伝える育ち」を「①思いをもつ」、「②思いを出す」と捉える。

ウ ねらい

- ・ 自分なりの言葉で思いを伝えようとする

エ 教師の援助の視点

(c)語りかける, (f)思いを確かめる,

(g)経験の共有をする援助を中心に行う。

オ 実践事例の分析と考察

A児が思いを伝える姿を、図3と5頁の図4、図5、6頁の図6にまとめる。

◇幼児が思いを伝えている姿 ◆幼児が思いを伝えられていない姿
 ○思いを伝えることにつながった援助 ●思いを伝えることにつながらなかった援助
 ●思いを伝えることにつながらなかった援助 教師 T1, T2, T3 教師の援助の視点

【2日目】【自分で見つけたことで遊んでいた場面】

育ち	思いを伝える幼児の姿	教師(T1)の援助
思いを出す	◇「ねずみばあさん。」と笑顔で答える	○A児のしていることに興味をもち、「何をやってるの?」と話しかけ、寄り添おうとする [a]通じ合う
思いをもつ	◆ちらっと見るが、自分の遊びを続ける	●C児がしている遊びに興味に向くように、「見て、見て。」と、声を掛ける [i]多様な表現へつなぐ
思いをもつ	◆口元を動かすが、あまり興味を示さない	●A児と会話のやり取りをしようとなずみばあさんになって、話し掛ける [d]対話の相手になる
思いをもつ	◆教師に視線を向けた後、その場からいなくなる	●クイズをしてやり取りを楽しもうとする [d]対話の相手になる

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の活用
 教師間で保育のリフレクション(3名)・動画での振り返り

【思いを伝える育ちの把握】

- ・ 周囲のことにあまり興味を示さない
- ・ 問いかけにどう答えて良いか分からない
- ・ A児の育ちを「②思いを出す」よりも、「①思いをもつ」部分が強いと見直す

【教師の援助】

- ・ 「友達とつなげよう」とか、「やり取りをしよう」とした [i]多様な表現へつなぐ, [d]対話の相手になる援助は、A児が思いを伝えることにつながっていない
- ・ 育ちの見直しに合わせて、[a]通じ合う, [g]経験の共有をする援助を主にしていくことを教師間で確認する

【考察】

教師は、友達とやり取りをさせたい気持ちが強く、A児の育ちに応じていない援助をしていた。教師が次々と話し掛けたことで、A児は戸惑い思いを出すことなく、その場からいなくなってしまうのではないかと考える。

図3 A児の2日目の分析と考察

【4日目】【クラスで、ゲームをした場面】

育ち	思いを伝える幼児の姿	教師(T1, T2)の援助
思いをもつ	◆役を決める際、友達の問いかけに答えず、黙っている	●T1は、役を決めるようにクラス全体に声をかける
思いを出す	◇T2に抱きつく	○不安そうな表情に気づき、T2が近づき [c語りかける]
思いを出す	◇首を横に振る	○T2がA児を受け止める [a通じ合う]
思いを出す	◇T2の説明を聞いても、首を横に振る	○T2がどの役にしたいのかを優しく尋ねる [c語りかける]
思いを出す	◇うなづく	○T2がルールについて説明する [c語りかける]
思いを出す	◇T2と何度か一緒に動くことで動きが分かり、笑顔を見せながら体を動かす	○A児の気持ちに寄り添い、「難しい?」と問い掛ける [c語りかける]
思いを出す	◇合図に少し遅れるが、自分で動き出し、立ち止まる	○T2が同じ役になり、一緒に動く [g経験の共有をする]
		○楽しんでる姿を見て、様子を見守る [a通じ合う]

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の活用
教師間での保育のリフレクション(4名)・動画の振り返り

【思いを伝える育ちの把握】

- ・T1の説明の後、不安そうな表情で、友達の問いかけにも反応しない 「①思いをもつ」
- ・ルールが分からず、困っているが、自分からは伝えられない 「①思いをもつ」
- ・T2には、首を振ったり、うなずいたりして、自分の思いを表現している 「②思いを出す」

【教師の援助】

- ・T2が、不安そうにしている姿に気づき、A児の育ちにに応じた[a通じ合う]援助を行い、A児の思いに共感することができた
- ・T2とA児と一緒に動き、[g経験の共有をする]ことが、A児がゲームを楽しむ姿につながった

【考察】

保育のリフレクションで、A児の育ちにに応じた援助を教師間で確認し合い、共通理解をしていたことで、A児の不安そうな様子に気が付いたT2が、すぐに[a通じ合う]、[g経験の共有をする]育ちにに応じた援助を行い、ゲームを楽しむことができたのではないかと考える。

図4 A児の4日目の分析と考察

【5日目】【キャラクター人形をめぐって泣いた場面】

育ち	思いを伝える幼児の姿	教師(T1)の援助
思いを出す	◇好きなキャラクターのことに、得意そうに答える	○キャラクターのことを質問する [d対話の相手になる]
思いをもつ	◇C児がA児に見せようと持ってきたキャラクターの人形を自分の方に抱き寄せる	
思いを出す	◇キャラクターの人形を指して、泣き出す	・C児が、キャラクターの人形を自分の方に引き戻す
思いを出す	◇教師の言葉に、A児は泣きながらうなづく	・泣き声を聞いて、周りに人が集まる
思いを出す	◇教師に促され、「貸して。」と言う	・C児は、キャラクターの人形をA児に渡す
		○A児とC児それぞれの思いに寄り添い、思いを言葉にする [a通じ合う]
		○A児に自分の思いを伝えるように促し、励ます [c語りかける]

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の活用
教師間での保育のリフレクション(3名)・動画の振り返り

【思いを伝える育ちの把握】

- ・泣くことは、自分の思いを出している「②思いを出す」姿であると捉えることを教師間で確認した

【教師の援助】

- ・すぐに相手の思いに気付かせようとするのではなく、思いを出しているA児・C児の思いに共感し、[a通じ合う]援助を行うことができた
- ・明日以降も、A児の表情をよく見て、A児の思いを読み取り、思いに沿って[a通じ合う]援助をしていくことを教師間で確認した

【考察】

泣くことも、「②思いを出す」姿であると捉えることで、教師の意識が変わった。A児なりの伝え方で、思いを表現しようとしている姿をよく見て、受け止めていく教師の援助が、幼児が自分の思いを素直に表現することにつながると考える。

図5 A児の5日目の分析と考察

[6日目]【やりたいことを見つけて遊んだ場面】

育ち	思いを伝える幼児の姿	教師(T1)の援助
思いをもつ	◇黙ってコーンを重ねている	●A児に何をして遊ぼうとしているのかを尋ねる [f]思いを確かめる
思いをもつ	◆無言で答えない	○「がんばって。」と声をかけ、励ます [c]語りかける
思いを出す	◇うなづく	
思いを出す	◇「おうちに持って行く。」と、自分のしようとしていることをつぶやき、家の中に運ぶ	○「これも、どうぞ。」と、コーンをA児に渡す [g]経験の共有をする
一方的に自分の思っていることを伝える	・D児が玩具を持って来る	○A児のしようとしている遊びに興味をもち、見守る [a]通じ合う
	◇D児を受け入れ、一緒に遊ぶ	○二人のやり取りを見守る [a]通じ合う
	◇D児との会話を楽しむ	○会話に参加する [g]経験の共有をする

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の活用
教師間での保育リフレクション(4名)・動画の振り返り

【思いを伝える育ちの把握】

- ・やりたいことを実現しようとしている場面
「①思いをもつ」
- ・教師の問いかけにうなづく場面
「②思いを出す」
- ・D児との会話を楽しんでいる場面
「③一方的に自分の思っていることを伝える」
- ・遊びの中で、三つの育ちの姿が見られた

【教師の援助】

- ・[a]通じ合う、[g]経験の共有をするなど、育ちに応じた援助をすることができた

【考察】

A児が、自分で見つけた遊びをしていたこと、T1がやりたいことが実現できるように近くで見守っていたこと、育ちに応じた援助を積み重ねていたこと、D児がA児にとって親しみを感じている相手であったことなどから、A児は、自分なりの言葉で、D児との会話を楽しみ、思いを伝えることができたと考ええる。

図6 A児の6日目の分析と考察

思いを伝える幼児の姿	A児の思いの読み取り	教師(T1)の援助
(D) が先に、コーンに乗って、屋根裏に登る。	(A) 「こら、Dちゃん、乗るんじゃない。」	* 自分が登ろうと思っていたので、(D)には、降りてほしい。
(D) 「いいでしょ。」	(A) 「だめ、おうち乗った、だめ。」	
(D) 「いいでしょ。」	(A) 「Dちゃん、そっち乗ったら、だめ。」	* 注意はしているが、それほど、怒ってはいない。
(D) 「いいでしょ。」	(A) 「だめ、もうDちゃん、そっちから、降りて。」	
(D) 「降りました。」	(A) 「Dちゃん、そっちから降りて。」	* (D) とのやり取りが楽しくなっている。
(D) 「あーそうなんです。」	(A) 「降りてないじゃんか。」と笑いながら言う。	T1必要ところで援助しようとして、側で、二人のやり取りを見守る [a]通じ合う
(D) 「あーそうなんです。」	(A) 「あーそうなんです。」	* (D) の言い方がおもしろいのでまねをしている。
(D) 「そうなんです。」	(A) 「はい、Dちゃん。」	
(D) 「足、ぶへらん。」	(A) 「こっちから、ジャンプして。」	
(D) 「足、プラブラ。」と笑う。	(A) 「Dちゃん。」	
(D) 「はい、Dちゃんです。」	(A) 「はい、Dちゃん。」	
(D) 「D、Aちゃんのおうちにいますよ。」	(A) 「いますよ。」	T1 「はい、T1先生です。」 [g]経験の共有をする

(動画によるA児の会話分析)

カ A児の考察

保育のリフレクションにおいて、A児の思いを伝える育ちや育ちに応じた援助について、教師間で繰り返し確認し、A児に関わる教師が共通して、[a]通じ合う、[g]経験の共有をする援助を心掛けたことで、自分から話しかけたり、クラスでのゲームや友達との会話を楽しんだりする姿が見られた。これらの援助が、A児が自分の思いを伝えることに有効だったと考える。

また、「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の具体的な姿を見ていくことで、A児が泣く姿も、A児の育ちに応じた自分の思いを伝えようとしている姿であると、教師の意識が変わり、A児が自分の思いを自分なりに表現している姿を見逃さずに育ちに応じた援助を行うようにしたことが、A児が思いを伝えることにつながったと考える。

(3) 抽出児(B児)について

ア B児の姿

以前よりも、友達と関わって遊ぶことが増え、転がしドッジボールなどの集団遊びに参加して遊ぶようになってきている。友達と思いが食い違った時、手が出たり、泣いたりすることは減ってきたが、自分の思いを伝えるのは、「したかった。」「嫌だった。」などの一言で、うまく言葉で説明できないことが多い。

イ 思いを伝える幼児の育ち

B児の「思いを伝える育ち」を、「③一方的に自分の思っていることを伝える」と捉える。

ウ ねらい

- ・ したいこと、してほしいことの伝え方が分かる

エ 教師の援助の視点

- ・ **(b)聞く**, **(d)対話の相手になる**, **(f)思いを確かめる**, **(j)言語環境の主役になる**援助を中心に行う。

オ 実践事例と分析・考察

B児の思いを伝える姿を、図7、図8、8頁の図9にまとめる。

- ◇幼児が思いを伝えている姿
- ◆幼児が思いを伝えられていない姿
- 思いを伝えることにつながった援助
- 思いを伝えることにつながらなかった援助
- 教師 T1, T2, T3
- 教師の援助の視点

[3日目]【転がしドッジボールで、外野にいた場面】

育ち	思いを伝える幼児の姿	教師(T1)の援助
思いを出す	◆ボールを何度も転がすが当たらない	●すぐに転がすと良いことを知らせる [指示する]
	◆蹴って転がしたボールが、友達に当たる	●B児のそばに行き、ルール違反を注意する [注意する]
	◆教師の話も耳に入らず、すぐにボールを転がす	
	・E児が転がしたボールが当たり、ゲームが終了する	
	◆終了したことに気付かず、ボールを追いかける	●優勝者を知らせる [経験の共有をする]
	◆悔しそうな表情をして、優勝したF児にしがみつく	
	◆ボールを悔しそうに、思い切り蹴る	
	◆ボールを取りに行く	●B児の行動を注意する [注意する]

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の活用
教師間で保育のリフレクション(3名)・動画の振り返り

【思いを伝える育ちの把握】

- ・ ボールを転がすことに、一生懸命になっている
- ・ ボールを当てたいが当てられず、イライラしている
- ・ 自分の思いを素直に言葉に出せない
- ・ B児の育ちを「②思いを出す」と見直す

【教師の援助】

- ・ 指示や注意、優勝者を知らせた援助は、悔しさを募らせることになり、思いを伝える姿につながらなかった
- ・ 育ちの見直しに合わせて、援助を見直す

(c)語りかける, **(f)思いを確かめる**, **(g)経験の共有をする**

【考察】

B児は、思いを言葉ではなく、行動や表情で表していた。教師は、その場ではB児の思いに気が付かず、行動に対して指示や注意ばかりしていた。保育のリフレクションで話し合い、動画でB児の表情を見ることで、その時のB児の悔しい思いに気付くことができた。

B児の行動の意味を理解し、表情から思いを読み取って、B児の悔しい思いに共感する援助が必要だったのではないかと考える。

図7 B児の3日目の分析と考察

[5日目]【「入れて」と自分から伝えた場面】

育ち	思いを伝える幼児の姿	教師(T1, T2, T3)の援助
一方的に自分の思っていることを伝える	◇ボールで遊ぼうとT1に訴える	○T3は、T1が他の幼児の援助をしていたので、遊びの相手になろうとB児に声を掛ける [c語りかける]
	◇T3の方に、ボールを蹴る	●T3「すごい」と褒める [認める]
思いをもつ	◆ボールを拾うと、T3ではなく、別の場所で転がしドッジボールをしている方へ向かって蹴る	○T2「Bくん」と諭すように声を掛ける [c語りかける]
	◆G児がボールを蹴り返し、B児はボールを走って取りに行く	●T3「それ」とタイミングを合わせて声を掛ける [g経験の共有をする]
	◆ボールを軽く蹴りながら、転がしドッジボールをしている方へ近づく	●T3の目の前にボールが来たので、足で止める
	◆無言でボールを蹴る	
	◇「やめて」とT3に強い口調で言う	○T3「ごめん」と謝り、B児が何をしたいのか、様子を見守る [a通じ合う]
一方的に自分の思っていることを伝える	◇倉庫の方へボールを蹴り、意を決して、転がしドッジボールをしているT2や友達に「入れて」と言う	○T2「いいよ」と顔を近づけて笑顔で答える [c語りかける]
思いをもつ	◇笑顔で転がしドッジボールをして遊ぶ	

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の活用
教師間での保育リフレクション（3名）・動画での振り返り

【思いを伝える育ちの把握】

- ・教師には、強い口調で思いを伝えている
「③一方的に自分の思っていることを伝える」
- ・「入れて」がなかなか言えない。自分の中で
タイミングを計っている「②思いを出す」

【教師の援助】

- ・T 3は、**【c】語りかける**、**【g】経験の共有をする**
援助をして何度も働きかけているが、B児の
思いになかなか沿えなかった。B児の「やめ
て」の一言で、何か思いがあることに気づき、
B児の様子を見守ったことが自分で思いを
伝えることにつながった
- ・T 2は、B児の良くない行動をすぐには否定
せず、思いを読み取り、受け止めたことで、
B児が笑顔で遊びに参加できた

【考察】

T 2やT 3も、B児の育ちを把握し育ちに
応じた援助をしようとしている。B児がやりたいことが
実現できるように、連携を取りながら、援助をした
ことにより、自分で思いを伝えることができた喜び
と、みんなと一緒に遊びの楽しさを味わうことにつ
ながったのではないかと考える。

図8 B児の5日目の分析と考察

思いを伝える幼児の姿	B児の思いの読み取り	教師(T1)の援助
(B)黙っている	*ほっとする	T1「先生がね、この中入ってたからね、『使ったじゃんよんじやない』っていったんよ。」 【f】思いを確かめる
(H)「なら、使っていいよ。」 (G)「いいよ。」 ・遊戯室に戻る		T1「いい?」 「あ、ほんと、よかった。」 【a】通じ合う
(B)「あ〜あ。」と大きなため息をつく。	*緊張から解き放たれ、安心する	T1「言ってみたらよかったのに、『先生がいらしたんよ。』って。」 【c】語りかける
(B)「うん。」と屋根をつげながら答える		T1「Hくん、怒らなかつたね。」「ちゃんよ、いいよ。』って、言ってくれたじゃん。よかったね。」 【c】語りかける
(B)「うん。」		T1「これで、安心して使えるね。」 【f】思いを確かめる
(B)「あ〜、何か、家作る。」	*やる気が出てくる。	

(動画によるB児の会話分析)

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の活用
教師間での保育のリフレクション（3名）・動画での振り返り

【思いを伝える育ちの把握】

- ・友達、特にF児、H児には、言葉で思いを伝える
にくい「②思いを出す」
- ・T 1には、思いを素直に伝える「②思いを出す」

【教師の援助】

- ・**【f】思いを確かめる**、代弁する援助が思いを伝える
ことにつながった

【考察】

- ・F児とH児は、B児にとって、憧れの存在であり、
彼らの後を追いかけて遊んでいる。彼らに、
嫌われたくない気持ちもあり、強く言われる
と、自分の思いを伝えられなくなる状況がある。
- ・表情を見て、思いを読み取ろうと意識すること
を積み重ね、伝えたい思いを**【f】思いを確かめ
る**、場合によっては、代弁する援助が、有効だ
と考える。

図9 B児の7日目の分析と考察

【7日目】【友達に思いを伝えられなかった場面】

育ち	思いを伝える幼児の姿	教師(T1)の援助
思いを出す	◆なぜブロックを壊して使ったのか、H児の問いかけに理由を説明できず、困った表情で作り続けている	
思いを出す	◇H児がF児を呼びに行っている間にT1に、自分の思いをつぶやく	○B児に語りかけ、思いを確認する 【f】思いを確かめる ○B児の思いに共感する 【a】通じ合う
	◆F児・H児の追及が続き、手が止まり、下を向く	●B児が自分で言えるように促す 【c】語りかける
思いを出す	◆一点を見つめて、口を固く結んでいる	○B児の表情を見て、代弁する 【代弁する】
	◇「うん。」と、うなずく ・F児、H児に理由が伝わる	
	◇二人が許してくれたことにほっとしてため息をつく	○ほっとしている気持ちに共感する 【a】通じ合う
	◇T1の語りかけに返事をする	○B児の思いを読み取り、T1が言葉で表現する 【c】語りかける
	◇「家を作ろう」と、つぶやき、やる気が出る	

カ B児の考察

B児は、思いを言葉でなく、行動や表情で表すことが多いことが分かった。**【f】思いを確かめる**、代弁する援助を行うようにしたことで、教師は分かってくれている、相手に思いが伝わったという安心感から、B児自身が自分の思いを伝えようとする姿につながったと考える。これらの援助が、B児が思いを伝えることに有効だったと考える。

(4) 考察のまとめ

○ 思いを伝える幼児の育ちを理解していくと、「泣く」「悔しい表情をしている」姿も思いを伝えるために必要な表現であると、教師の捉えが変わった。この意識の変化により、自分なりに思いを表現している姿を見逃さずに援助をすることができるようになってきた。

○ 検証保育の結果から、「①思いをもつ」、「②思いを出す」育ちの幼児が思いを伝えるための援助として、有効な視点を得ることができた。

さらに、「見守る」、「代弁する」援助も思いを伝えるための援助の一つとして有効だと考えられるため、「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」に加筆した。

(図 10)

思いを伝える幼児の育ち		幼児の思いの読み取り	教師の援助	
育ちの道筋	具体的な姿		視点	具体的な援助の例
②思いを出す	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉しさ、楽しさ、悔しさ、悲しさなどの感情は出しているが、うまく相手に伝わらない ・喜びや楽しさを分かち合う ・面白さに気付き、顔を見合わせて笑う ・友達側でうなずいたり、微笑んだりする ・感じたことをつぶやく ・笑う、泣く、怒るなど感じたことをそのまま表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉で相手に伝えたくない ・相手に親しみを感している ・安心して表現している 	(g) 経験の共有をする	・心を動かしている姿を見逃さないようにし、遊びの楽しさを共有する
			(f) 思いを確かめる	・つぶやくなどを聞き逃さず、繰り返したり、聞き返したりする
			(c) 語りかける	・気持ちに寄り添って優しく語り掛ける
①思いをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・もじもじして、感じた思いを表現できない ・目の動きはいろいろな場や友達を追っている ・友達の傍らで、様子をじっと見て過ごしている ・「おもしろそうだな。」「不思議だな。」と疑問をもって、見ている ・自分だけの世界にいて、好きな遊びに没頭している 	<ul style="list-style-type: none"> ・どう表現すればいいのか戸惑っている ・見ていることで参加したつもりになっている ・考えを巡らせている ・心の中に思いを蓄積している 	(g) 経験の共有をする	・心を動かしている姿を見逃さないようにし、遊びの楽しさを共有する
			(a) 通じ合う	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しそうだね」「悲しいね」と心に寄り添い、共感する ・「〇ちゃん」とさりげなく体に触れながら声を掛ける ・感じている心の動きを受け止める

↓

思いを伝える幼児の育ち		幼児の思いの読み取り	教師の援助	
育ちの道筋	具体的な姿		視点	具体的な援助の例
②思いを出す	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉しさ、楽しさ、悔しさ、悲しさなどの感情を、<u>表情や身振り、短い言葉で表現している</u> ・教師や友達と喜びや楽しさを分かち合う ・面白さに気付き、顔を見合わせて笑う ・感じたことをつぶやく ・友達側でうなずいたり、微笑んだりする ・笑う、泣く、怒るなど感じたことを表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉で相手に伝えたくない ・どうやって伝えていいかわからない ・相手に親しみを感している ・安心して表現している 	(g) 経験の共有をする	・ <u>幼児と同じ場</u> にいて、同じものを見るようにし、 <u>幼児が思いを伝えたい時に「楽しいね」「嫌だったね」と受け止める</u>
			(f) 思いを確かめる	・表情や行動を見て、つぶやくなどを聞き逃さず、 <u>思いを確かめたり、代弁したりする</u>
			(c) 語りかける	・気持ちに寄り添って優しく語り掛ける
①思いをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉しさ、楽しさ、悲しさ、悔しさ等を<u>感じている</u> ・もじもじして感じた思いを表現できない ・目の動きはいろいろな場や友達を追っている ・友達の傍らで、様子をじっと見て過ごしている ・「おもしろそうだな。」「不思議だな。」と疑問をもって見ている ・<u>好きな遊びに熱中している</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・どう表現すればいいのか戸惑っている ・みんなが何をしているのを見ている ・見ていることで参加したつもりになっている ・何を遊ぼうか考えを巡らせている ・教師や好きな友達のそばで安心してい る ・心の中に思いを蓄積している 	(g) 経験の共有をする	・心を動かしている姿を見逃さないようにし、遊びの楽しさを共有する
			(a) 通じ合う	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しそうだね」「悲しいね」と心に寄り添い、共感する ・「〇ちゃん」とさりげなく体に触れながら声を掛ける ・感じている心の動きを受け止める ・<u>熱中していることを支え、見守る</u> ・<u>安心感を味わえる雰囲気を作る</u>

図 10 「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」の再構成

V 研究のまとめ

1 成果

(1) 幼児の育ちの把握と育ちに応じた援助について

「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」を活用することで、思いを伝える幼児の育ちの把握がより確かなものになった。

A児・B児は、場面や相手により、思いを伝える姿が異なることが分かった。幼児の行動や表情をよく見て、その時の状況に合わせて思いを伝える育ちに応じた援助をしていくことが、思いを伝える姿につながったと考える。

幼児が思いを伝えることができるようになるためには、思いを伝える幼児の育ちを把握し、育ちに応じた援助を行うための指標として、「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」を活用することが有効であった。

(2) 教師間の共通理解について

保育のリフレクションで、幼児に対するそれぞれの見取りを伝え合い、「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」を活用していくことで、教師間で幼児の育ちについて共通理解することができた。このことが、教師が同じ認識の基に、連携を取りながら、育ちに応じた適切な援助を行うことにつながったと考える。

2 課題

本研究では、「①思いをもつ」、「②思いを出す」育ちの抽出児2名についての検証を行ったことで、それぞれの育ちに応じた適切な援助の視点を得ることができた。今後は、実践を通して、他の幼児についても、思いを伝える育ちに応じた適切な援助を探っていくことを継続して行い、「思いを伝える幼児の育ちと教師の援助を関連付けた表」をより確かな指標となるように改善していきたい。

引用文献

- 1) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成20年, 97頁
- 2) 前掲書 1), 97頁
- 3) 国立教育政策研究所『幼児期から児童期への教育』, 平成17年, 48頁
- 4) 前掲書 1), 138頁
- 5) 前掲書 1), 97頁

参考文献

- ① 小田豊, 奥野正義, 横山文樹他編著『保育内容 人間関係』北大路書房, 2009年
- ② 中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育部会「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」答申, 平成17年
- ③ 広島県教育委員会「広島県幼児教育調査」, 平成27年
- ④ 無藤隆, 高杉自子, 有賀和子他編著『保育講座 保育内容 言葉』ミネルヴァ書房, 1990年
- ⑤ 文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」報告, 平成22年
- ⑥ 文部科学省『幼児理解と評価』, 平成22年

資料 思いを伝える幼児の育ちと教師の援助の援助を関連付けた表

思いを伝える幼児の育ち		教師の援助
育ちの道筋	具体的な姿	
④相手に分かるように伝える	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会や集会で、楽しかったことや嫌だったことなど自分の思いを伝える 年下の幼児に優しく話しかける 相手の顔を見ながら話す 相手に分かる言葉で伝える 「～がたいから、貸して。」「～ちゃん、一緒に遊ぼうよ。」などしたいこと、してほしいことの伝え方が分かる 「これ、どうやってやるの？」など分からないこと、知りたいことを相手に分かるように伝える 	<p>視点</p> <p>(j) 言語環境の主役</p> <p>(i) 多様な表現へつなぐ</p> <p>(g) 経験の共有をする</p> <p>具体的な援助の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 人とのかかわり方や表現の仕方、応答の仕方のモデルを示す 生活の中で、折に触れて、豊かな言語表現をする イメージを豊かにもち、「なあに」「どうしたの」「それから」「どんなふうに」など幼児の表現を引き出すようにする 幼児と同じ場にいるようにし、幼児が思いを伝えたい時に、「楽しいね」「嫌だったね」と受け止める
③一方的に自分の思っていることを伝える	<ul style="list-style-type: none"> 自己主張がぶつかり合う したこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなど自分の思いを伝える 自分なりの言葉で話す 自分のイメージや考えを上手く言葉で表現できず、身振りや表情を交えて伝える 	<p>(j) 言語環境の主役</p> <p>(f) 思いを確かめる</p> <p>(d) 対話の相手になる</p> <p>(b) 聞く</p> <p>(g) 経験の共有をする</p> <p>(f) 思いを確かめる</p> <p>(c) 語りかける</p> <p>(g) 経験の共有をする</p> <p>(a) 通じ合う</p> <p>具体的な援助の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 人とのかかわり方や表現の仕方、応答の仕方のモデルを示す つぶやきなどを聞き逃さず、繰り返すことで、幼児自身の思いを確認する 幼児が話そうとするのを待つ 幼児の話をしつめと受け止め、話したくなる方向で返していく 幼児の思いを的確に言葉で表現する 心に向き合ってじっくりと話を引き出す いつでも、どこでも幼児の思いに耳を傾ける 「そうだね」「ふーん」と、うなずき、応答する 幼児と同じ場において、同じものを見るようにし、幼児が思いを伝えたい時に「楽しいね」「嫌だったね」と受け止める 表情や行動を見て、つぶやきなどを聞き逃さず、思いを諦め取り、共感したり、代弁したりする 泣いたり、悔しい表情をしていることを肯定的に受け止める 気持ちに寄り添って優しく語りかける
②思いを出す	<ul style="list-style-type: none"> 嬉しさ、楽しさ、悔しさ、悲しさなどの感情を、表情や身振り、短い言葉で表現している 教師や友達と喜びや楽しさを分かち合う 面白さに気付き、顔を見合わせて笑う 友達の胸でなすいたり、微笑んだりする 感じたことをつぶやく 笑う、泣く、怒るなど感じたことをそのまま表現する 	<p>(g) 経験の共有をする</p> <p>(f) 思いを確かめる</p> <p>(c) 語りかける</p> <p>(g) 経験の共有をする</p> <p>(a) 通じ合う</p> <p>具体的な援助の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉で相手に伝えたくなくっている どうやって伝えて良いかわからない 相手に親しみを感している 安心して表現している
①思いをもつ	<ul style="list-style-type: none"> 嬉しさ、楽しさ、悲しさ、悔しさ等を感じている ももとして、感じた思いを表現できない 目の動きはいろいろな場や友達を追っている 友達をそばで、様子を見つと見て過している 「おもしろそうだな。」「不思議だな。」と疑問をもつて、見ている 好きな遊びに熱中している 	<p>(g) 経験の共有をする</p> <p>(a) 通じ合う</p> <p>具体的な援助の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 心を動かしている姿を見逃さないようにし、遊びの楽しさを共有する 「楽しいね」「悲しいね」と心に寄り添い、共感する 「〇ちゃん」とさりげなく体に触れながら声を掛ける 感じている心の動きを受け止める 熱中していることを支え、見守る 安心感を味わえる雰囲気を作る

【参考文献】
 熊鷹 隆・高杉 自子・有賀 和子他編著 『保育内容 言葉』 ミネルヴァ書局、1980年
 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 平成20年